名誉会員の推挙に寄せて

黒木　保博　新名誉会員

【本学会役員歴】
第 20 期　理事（3 年）
第 21 期　理事（3 年）
第 23 期（第 2 期）副会長（1 年）
第 25 期（第 4 期）副会長（2 年）
第 26 期（第 5 期）副会長（2 年）

役員通算 5 期（11 年）

この度、日本社会福祉学会名誉会員に推挙いただきました。厚く御礼を申し上げます。喜んでお受けいたします。ありがとうございます。

1973年、修士課程の院生時に学会入会を承認されました。51年間、学会会員活動を続けられてきたことを感謝します。この間、合計11年間に渡り、理事を務めさせていただきました。学会活動を通じて、また理事在任中に、多くの会員の皆様との出会いがあり、ご指導、ご助言を頂戴しましたことを心から御礼申し上げます。

まず、理事任期前半の2001年から2期6年間は、渉外担当理事として、主に日韓学術交流等の学会外渉外係を担当させていただきました。大橋謙策会長時に2002年の日韓学術交流覚書締結がありました。2004年から3年間、高橋重宏会長でしたが、講演会や国際シンポジウム開催だけでなく、学会員による共同研究に両学会が取り組むことになりました。私が理事と共同研究員を兼ねて、日本側の代表になりました。両学会の共同研究は3年間だけでしたが、韓国側3人の共同研究者の先生方とは、その後もずっと連絡を取り合い、研究交流が続いております。

理事任期後半は、まず、2010年から、副会長、機関誌編集委員会委員長を1年間務め、在外研究のために中途辞任をしました。ご迷惑をおかけしました。白澤政和会長の時でした。

2014年からの2期4年間は、副会長、国際学術交流促進委員会委員長を務めさせていただきました。岩田正美会長、岩崎晋也会長でした。懸案となっていた日本、韓国、中国の学術交流の覚書締結をめざして、委員会は取り組みました。韓国、中国との連絡窓口を担当していただいた諸委員の尽力が実り、2017年に3カ国の覚書締結にこぎつけることができました。難問を交渉したわけではなかったのですが、細かな点で、なかなか合意が得られず、委員を務めていただいた先生方にご苦労をかけました。ご尽力をいただきました先生方に、心からの感謝を申し上げます。最終的な詰めの段階で、私費で国際電話をかけて、交渉・確認していただいた委員がおられたと思います。お詫びします。

理事在任中の話ではありませんが、私と日本社会福祉学会事務局とのなつかしい「思い出」を書いておきます。実は、同志社大学大学院修士課程2年生の時から、2年間半、日本社会福祉学会事務局員のアルバイトをしました。三浦文夫会長でした。日本福祉大学高島進先生から事務局を引き

継ぎました。学会員が1000人を超えた時代でした。当時は庶務担当理事が在職する大学で学会事務局を担当するというルールがありました。しかし、会員数と業務の増大による事務局対応能力から、大学の担当には限界があるという判断が理事会でなされました。そこで、全国社会福祉協議会内地域組織部に学会事務局業務をお願いすることになりました。三浦会長から一番ケ瀬康子会長に交代する時でした。引継ぎ書類を風呂敷に包み、新幹線で上京し、全社協で引き継ぎました。※1　20数年後、私が学会理事となり、学会の委員会に出席した時に、「院生アルバイトが理事になりましたか」と、ニコニコ顔の三浦先生から喜んでいただきました。三浦先生はアルバイトをしていた私のことを覚えておられました。

　もう一つ、書き残しておきたいことがあります。1998年4月、私は日本社会事業学校連盟事務局長を務めることになりました。社団法人化に取り組むことになり、法人化の主管省庁との交渉のために、学校連盟東京事務所を開設することになりました。四谷の事務所を賃貸するが、学校連盟だけの予算では負担が重すぎるということになりました。大友信勝先生、古川孝順先生、大橋謙策先生等の交渉やサポートもあり、学校連盟事務局と学会事務局、等との合同事務室を開設することができました。夕方、委員会を終えての先生方との帰路、四谷界隈の居酒屋での宴会が、なんともなつかしい思い出です。

※1『社会福祉学研究の50年　日本社会福祉学会のあゆみ』（2004年、ミネルヴァ書房）、306ページには、日本福祉大学から全社協に学会事務局が移動したような記述があります。実際は、同志社大学から全社協に移動していることを記しておきます。